

# 希望と夢を実現したバリアフリー映画館！

CINEMA Chupki TABATA



チュプキの外観。オープンしてまだ3年余りだが、チュプキを探している白杖の人人がいると近所の人が声をかけてくれるような、早くも地域に愛される映画館となっている。写真提供=CINEMA Chupki TABATA

20席の小さな映画館。イヤホンをつけると、音声が流れてきた。「Aさんが太鼓を運ぶ」「画面がモノクロになり、Bさんの家が写る」……映画の音と重ならないように、情景が簡潔に解説される。目を閉じると、スピンドルが水を吸収するように音声が耳に沁み込み、脳が映像を想像する。

音声ガイドをつけて映画を観たのは初めてだった。北区田端の商店街にあるCINEMA Chupki TABATA（シネマ・チュプキ・タバタ。以下、チュプキ）は、誰もが映画を楽しめる日本唯一のユニバーサルシアターとして、全作品が音声ガイド・字幕付きで、車いすスペースや親子鑑賞室ももうけている。代表の平塚千穂さんはお話をうかがつた。

「バリアフリー映画鑑賞推進団体シティ・ライツ」ですね。まず、シティ・ライツを始めたきっかけからお聞かせください。

そもそもきっかけは、ある異業種交流会に参加したことです。「夢を持った人集まれ！」という呼びかけで集まり、そこでチャップリンの『街の灯』というサイレント映画を視覚障がいの方に見ていただきました。

視覚障がいの方々にリサーチするところ、考えていました以上に映画を見るところに興味を持たれていましたが、自分たちには観られないものと諦めていたのです。一方で、すでに海外では公開初日から音声ガイド付きで鑑賞でき、視覚障がいの人がレビューをアップしていました。

ボランティアグループなら企画を

実現しやすいと考え、2001年にはシティ・ライツを設立しました。団体名は『街の灯』の原題City Lightsから取り、週1回の研究会から始め

—チュプキの運営母体は、視覚障がい者の映画鑑賞をサポートする

視覚障がいの人たちに  
映画を届けたい！



「チュブキ」とは、アイヌ語で「自然の光」を意味する。シアターのイメージは“森の中”。

ところどころに、木や緑のぬくもりのあるものが置かれている。ロビーの様子。写真提供=CINEMA Chupki TABATA

ました。メンバーは自主映画の監督やナレーター、俳優志望の人など7～8人です。

——なぜ、映画だったのでしょうか。

当時、私は映画館で働いていて、映画で人とつながることがやりたかったのです。

コアメンバーが海外へ行つてしまったり、視覚障がいの方々が観たかったのは上映中の作品だつたりして、「街の灯」の上映は実現しませんでしたが、活動は続けました。

音声ガイドは、最初から視覚障がいの方と一緒にくるうと考えていたので、意見交換のしやすいメリングリストを立ち上げました。『当事者』に呼びかけると、80人くらいが集まりました。メリングリストにいたいた投稿の中には、映画鑑賞の環境づくりに関して気づくことがたくさんありました。

——最初の映画鑑賞は?

シティ・ライツ設立の年にスタジオジブリの『千と千尋の神隠し』という映画が公開されました。すると、「私の隣で映画を見ながら解説してほしい」という要望があり、メリ

ングリストで発信したら、6人の希望者がありました。けれども、実況解説には得手不得手があります。そ

こで、解説が上手な人の声を複数の人に届けようと、MDレコーダーを持ち込み、ピンマイクで1人が解説し、イヤホンを分岐させて8人が聴くというやり方を試みました。けれども、劇場には事前に了承を得ていたとはいえ、一般のお客様にご迷惑をかけてしまうおそれがあるので、別室で解説しようという話になりました。

秋葉原に行き無線機のお店で相談すると、ミニFM局が使うような発信機を貸してくれました。映写室などから映画の解説をする人の声を、客席にいる方々にも、ラジオのイヤホンで聞くことができるようになつたのです。これは人数制限がなく、画期的でした。こうした「シアター同行鑑賞会」を始めると、口コミで広がつて、開始から2～3年後には200人ほどの視覚障がいの方々が集まつたこともありました。

鑑賞会は、月1回から週1回と回数が増えるに従い人数が分散され、30～40人くらいに落ち着きました。すると、鑑賞後に食事会やお茶会をひらいて感想を話し合つたり、説明しきれなかつたところを解説するこ



全席で音声ガイドを聞くことができたり、  
親子で鑑賞できる席もある。スピーカーの音もよく、  
豊かな時間が過ごせる映画館だ。

写真提供=CINEMA Chupki TABATA

—視覚障がいの方の映画鑑賞という企画は実現したのに、なぜ映画館をつくったのでしょうか。

ができるようになりました。

—それほど大変な想いをしながらあきらめなかつた理由は?

障がいのある方々が上映期間中いつでも映画が観られるようにするには、常設の映画館が必要だと思つたことと、いか映画館をつくりたいという私の夢があつたからです。そのために寄付を「夢貯金」として貯めていて、ある程度貯まつたところで物件を探しました。

ところが、法の規制がたくさんあり、最初に借りたところは映画館としては使うことができませんでした。たとえば、商業地域にあること、換気システムがきちんとしていること、2階以上の場合は避難ルートとして階段が2系統以上あること、広さによりトイレの数が決まっていることなどです。ただ、月4日以内なら法律に抵触しないので、上映会を続けつつ、映画館になりそうな物件を探し歩きました。諦めかけていた頃、奇跡的にここを見つけたのです。けれども、夢貯金は使い果たしていました。しかも、工事の見積は予想の3倍の金額でした。

応援してくれた人たちとの約束を果たしたかったからです。広島のシネマ尾道の存在もありました。「未来の映画館」を作るワークショップに参加した際に、シネマ尾道の支配人がゲスト講師としてやつてきました。2700万円の寄付を集め、閉館した映画館をよみがえらせたというお話を聞いて、背中を押してもらいました。

物件を押さえ、工事費は分割払いにしてもらったものの、募金を始めたのが最初の支払いのひと月前。それでも1ヶ月で1000万円、翌月には目標額の1500万円が集まりました。それでも充分ではなかつたのですが、スピーカーの設置を音響監督がボランティアでやつてくれます。それでも充分ではなかつたのですが、スピーカーの設置を音響監督がボランティアでやつてくれたのです。アンプやプロジェクターを半額ほどにしていただきなど、多くの方の協力をいただきました。椅子子は、ある劇場で新しいものと入れ替えるという情報が入り、無料でいたたくことができました。

開館までは綱渡りのような状態でした(笑)。

## 日本初の

### ユニバーサルシアターの誕生!

—ようやく映画館ができましたね（笑）。2016年9月にオープンしてから約3年、どのように運営されてきましたか。

障がいのある人のみを対象とした映画館と勘違いしていた方も少なからずいたこともあり、1年目はお客様がゼロという日もありました。が、一度来ると、リピーターになつてくださる方が多いです。視覚・聴覚障がいの方が健常の人と映画鑑賞したり、健常者の方が「抱っこスピーカー」<sup>\*1</sup>や音声ガイドを体験されたりと、楽しんでいただいています。ロビーで会った人同士が意気投合して、お茶を飲みにいくなど、自然な交流が生まれることもあります。来場いただくための工夫もしています。たとえば、音声ガイド有名な声優さんにお願いしたら、ファンの方が来て「口コミで広げてくれました。また、音声ガイドで鑑賞のポイントを教えてもらつたという健常者のお客さんもいます。音声ガイドや字幕は、抽象的な映画や聞き取りづらい方言を聞くのにも役立ちます。

19時からは、1時間5000円で

シニアレンタルもしています。自由に使っていただいている。このようにさまざまな楽しみ方をしていただいて、常設の映画館をつくつてよかつたなと思います。

—どのような作品を上映されていますか。

チュプキは小さいし後発の映画館なので、封切館（新作映画を初めて上映する映画館）にはなれませんが、できるだけ旬の新しい作品を届けしたいと思っています。また、映画ファンの評判やお客様のリクエストなども参考にしながら、スタッフと話し合って選んでいます。他の作品はメインの作品との組み合わせで考えます。

課題は、DCPというデジタルプロジェクトクターがないので、その素材でしか上映できない、大手の映画会社の作品を上映できないことです。一方、小さな制作会社の作品ならいいかというと、UDCast（ユーディーキャスト）<sup>\*2</sup>に対応していないものも多いので、月2～3本は音声ガイドを自作しています。

直接的なことだと、音声ガイドや字幕づくりですね。チュプキでは音声ガイドの講習会を不定期に開催していく、直近では11月頃の開校を考えています。はじめはボランティアでも、映画が好きな人なら、面白くてついハマってしまうと思います。視覚・聴覚障がいの方なら、音声ガイドや字幕のモニターとしてご協力ください。また、よりニーズにあつたものができていくと思います。

—今後の目標は？

音声ガイドの普及率はまだ20%未満です。100%にすることが目標ですが、さらには音声ガイドが数種類あって、それぞれの方好みに応じて選べるようになるのが理想です。

\*1 抱くタイプのスピーカー。耳の近くで鳴らすので音量を上げなくて音声ガイドや字幕、手話の表示などを聞こえやすく、音の振動を身体で感じることができます。

\*2 映画や映像、放送などの音声をスマートフォン等の端末と使って、音声ガイドや字幕、手話の表示などを行うことができるアプリケーション。11ページ参照。

IT企業の方なら、より良い鑑賞環境を整えるためのソフトウエアの開発を手掛けるなど、興味や専門性を生かして映像パリアフリー化のためと考えてくだされば嬉しいです。



シネマ・チュプキ・タバタ

<http://chupki.jpn.org/>

〒114-0013 東京都北区東田端 2-8-4

TEL&FAX 03-6240-8480

ボランティア・市民活動を広げ、応援する！

# ネットワーク

## Network

NO.362 2019年

10月号

特集

### 視覚・聴覚障がいの人たちの、 より彩りある暮らしのために —情報ユニバーサルを考える

思い立ったがボラ日

新宿区立障害者福祉センター  
交流・催しのお手伝い

いいものみい～つけた！ vol.21

社会福祉法人はなゆめ  
太宰治ファンに人気のグッズ

セルフヘルプという力 第21回

番外編 グループ同士がつながること  
セルフヘルプグループ交流会のあゆみ

TVAC News vol.2

地域の居場所づくり調査

